

アンケート&セッションの 趣旨説明

市川温子（東北大学）

(個人的な) 経緯

4年くらい前、当時の委員会（通称石野委員会）に、将来計画委員会は若手の人材育成のことも真剣に考えるべきだという声が（多分、若手から）寄せられた。（と記憶している）

当時は、将来計画委員会でカバーできることではないと思ったが、当時に比べ今は、

- ▶ 優秀な人材確保のためには、若手を取り巻く（悪）環境を改善する必要がある
- ▶ 大学や研究機関の制度を変えるのに必要なのは、権力ではなく、すでにいる教員の意識改革

あきらめ、しがらみ、既得権。。。

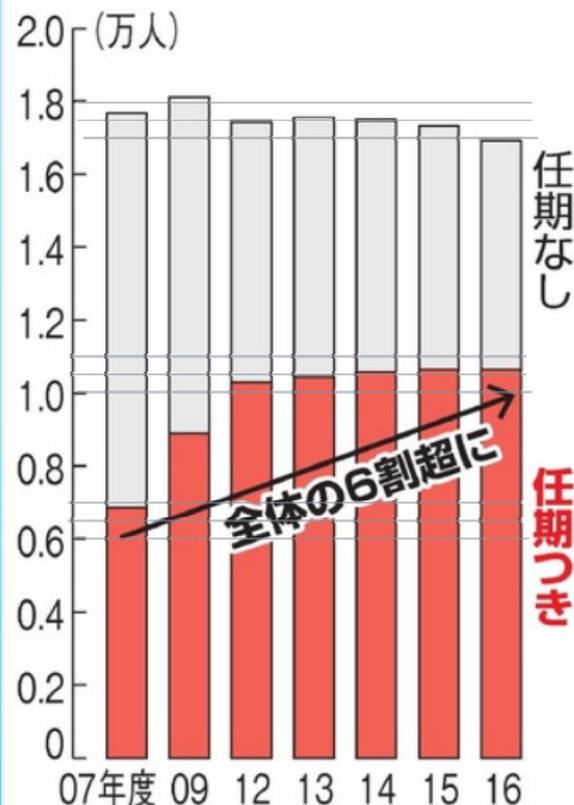
と思うようになった。

若手を取り巻く環境

- ▶ 任期なしポストが減って、任期つきポストが増えている。
- ▶ 次ページに詳しい内訳

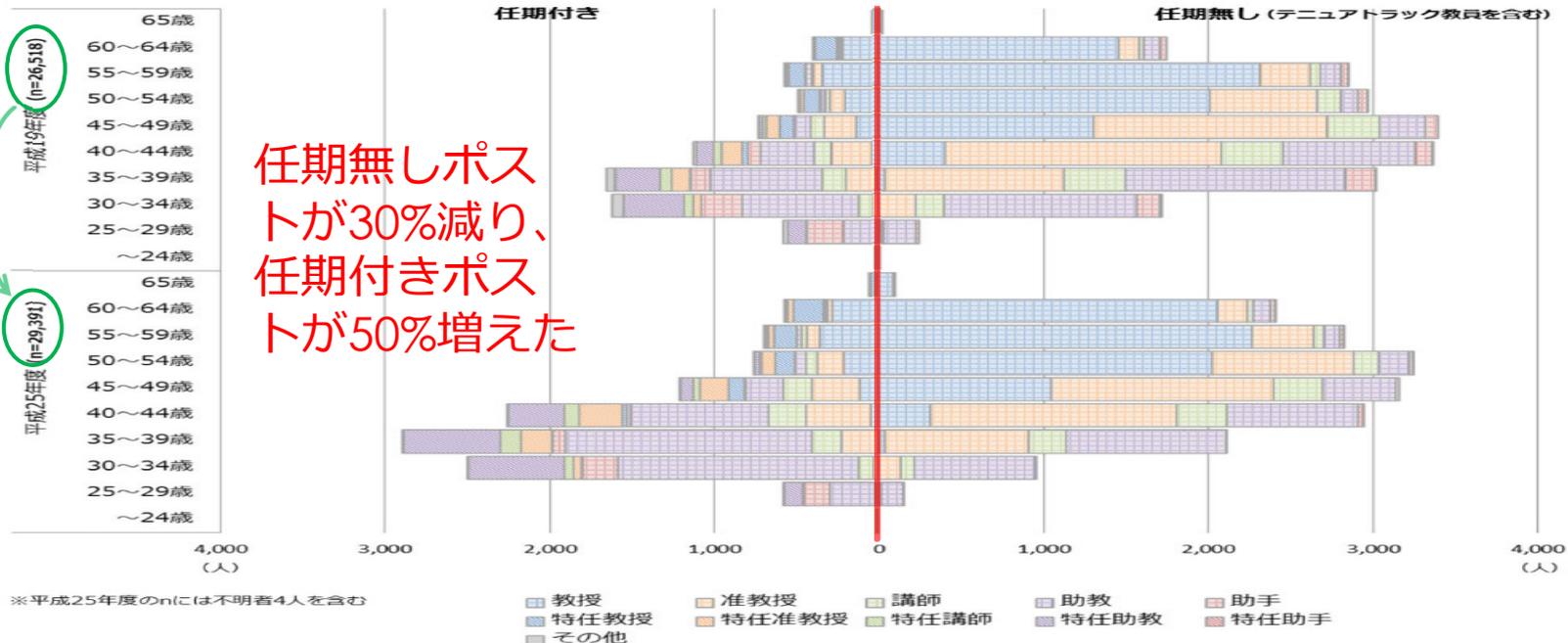
国立大学の40歳未満の「任期つき」「任期なし」教員数の推移

文科省への取材による。
08、10、11の各年度は調査せず



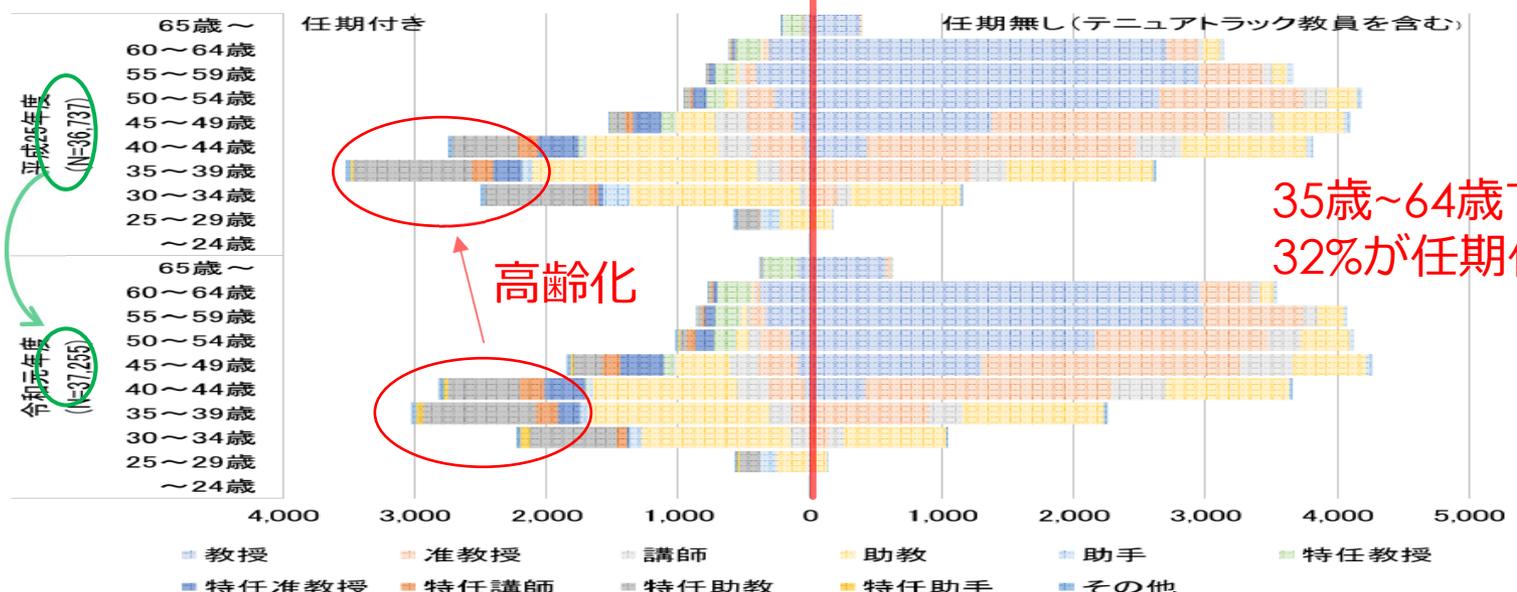
『大学教員の雇用状況に関する調査』2015年 科学技術・学術政策研究所 11大学の調査結果

2007
10%増えている
2013



『研究大学における教員の雇用状況に関する調査』2021年 27大学の調査結果

2013
1%増えている
2019

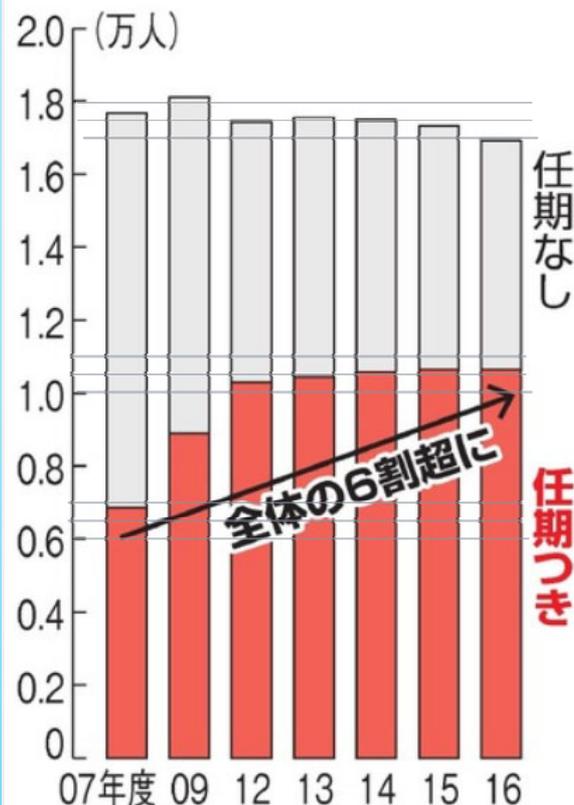


若手を取り巻く環境

- ▶ 任期なしポストが減って、任期つきポストが増えている。
- ▶ 高エネルギー分野がどうかはわからないが、傾向として同じではないか。
- ▶ これでは、優秀な人材は、(よほど情熱がないと) アカデミックに残らない
 - すでに“頭脳流出”は始まっているのではないか
- ▶ 個人の主観だが、35歳以上で任期付きでは、人生設計が難しい。
 - 家族を持つことの難易度が上がる
- ▶ 本当にそうか？ → アンケート

国立大学の40歳未満の「任期つき」「任期なし」教員数の推移

文科省への取材による。
08、10、11の各年度は調査せず



教員の意識改革

- ▶ 働き手の人口は減りつつあるが、総ポスト数は減っていない。

これ以上の増加は、多分、難しい

- ▶ 人件費の使い方について大学の運営の問題もあると思う

- ▶ できるだけ、多くの教員に問題点を共有してもらおうことが大切

→ このセッションの目的

- ▶ “議論したってどうせ変わらない”と問題提起をしなくなったら本当に変わらない。

- ✓ 今日20人を説得して、説得された人が半年で1人ずつ説得すると5年以内に、ほぼすべての教員をカバー

- ✓ 説得するには、**若手の声**が必要

- ▶ 後ほど、私なりの提案“任期付きを減らしてテニュアトラックに”をしたいと思います。

